



西村証券

チーフストラテジスト  
門司総一郎の

# ウィークリーレポート

2022年  
4月5日  
発行

第128回

「世界の株式市場は安定へ」(前編)

## ～ウクライナ紛争は5月までに決着～

### 初めに

ウクライナ紛争が続いています。さらに長期化と言った声も聞きますが、自分は5月までに決着を見ると予想しています。その場合、世界の株式市場はこの不安定な状況から脱却することになるでしょう。また、現在こちらも不安定な動きとなっている日本の株式市場も、政府の経済対策次第では上昇に転じることが期待できると見ています。今回はまずウクライナ紛争、次いで日本の政治についてお話しします。

### ウクライナ紛争は5月までに決着

元々プーチン大統領はウクライナの首都キーウの制圧を目指していましたが、想定外のウクライナ軍の抵抗にあい、戦略目標をキーウ奪取からドンバス地方の平定に移したと思われます。このように、形勢の悪い方が戦略目標を変更することはよくあることですが、この変更もプーチン氏自身戦況が思わしくないことを認めたものと言えます。

また、このように戦略目標を変更してもウクライナ軍が米軍などからの新たな武器の供給などを期待できるのに対し、遠征が長期にわたっているロシア軍は食料の補充などもままならないと思います。このように考えると、ロシアがこれ以上この戦闘を続けることは困難と見ています。

実際、ロシア経済はかなり悪化している模様です。米国の金融サービス企業S&Pグローバルは2022年のロシアのGDP成長率をマイナス8.5%と予想しています。これでは戦争している場合ではないと言えます。

プーチン氏は5月にドンバス地方を平定し勝利宣言するとの情報もありますが、現在の戦況やロシア経済の状況を考えるとプーチン氏の思うように状況が進むのは困難であり、逆にウクライナに有利な形で決着する可能性の方が高いと見ています。

### インフレ圧力は緩和へ

原油価格などの高騰でインフレが高止まりしていることも株式市場の悪材料ですが、こちらも改善が見込まれると見ています。現在の世界的なインフレは、ウクライナ紛争が原因の一つになっています。逆に言えば、今私がお話ししたような過程で紛争が決着すれば、インフレ圧力もある程度収まると言えます。これも世界の株式市場にとって押し上げ要因と思います。

【後編に続く】



チーフストラテジスト  
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.  
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)  
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号  
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業  
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。